

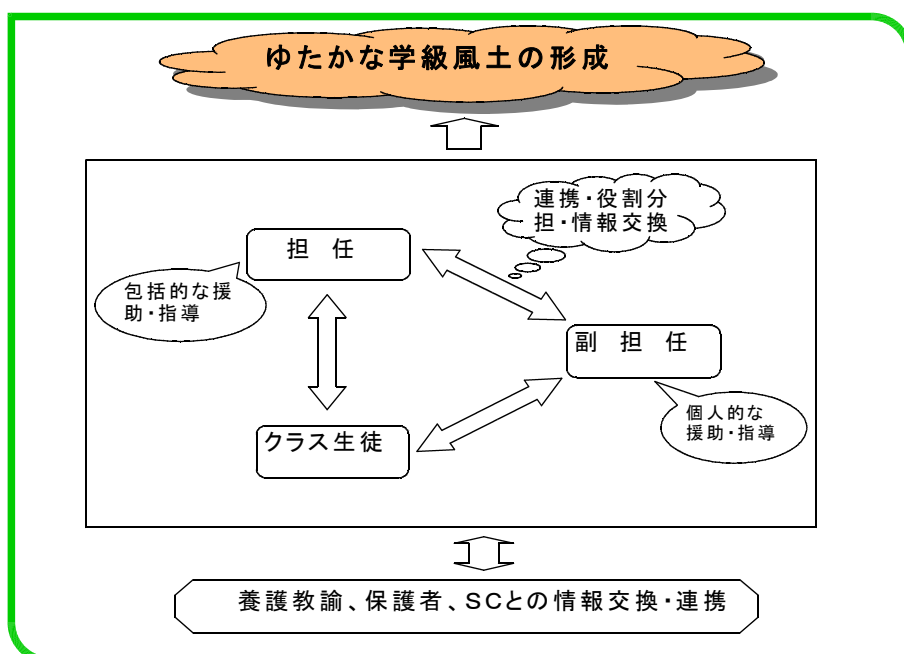
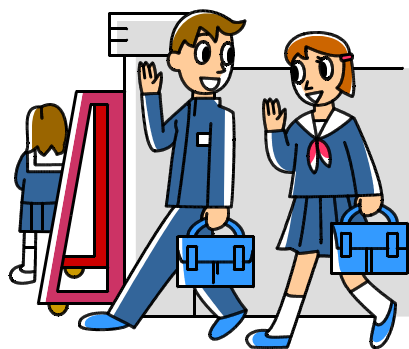
ゆたかな学級風土作りを目指した 正副担任の連携体制の在り方

副担任の立場を生かしたコーディネーターとしての役割

特別研修員 馬場 こずえ

研究の概要

本研究は、副担任の立場を生かし学級経営や生徒指導にかかわる上で、正担任との効果的な連携体制をつくることを目指したものである。教育相談的な援助・指導を生徒に行うことで正担任の立場では介入しづらい場面にも対応でき生徒の心理的ストレスの緩和が期待され、結果的にゆたかな学級風土の形成につながると考えられる。また、正担任と副担任の物理的・心理的ストレスの軽減につながるようなコーディネートを試みたものである。

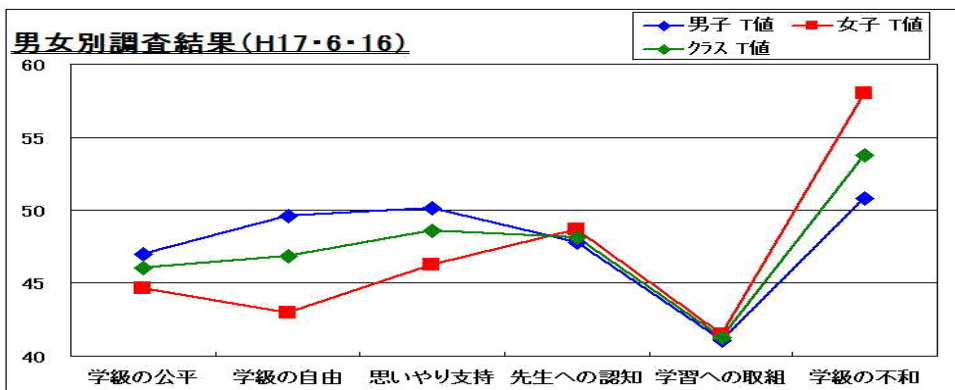




連携といっても、特別なことをしたわけではありません。
例えば、副担任としてSHR代行・清掃活動・学校行事を通して生徒との関係づくりを行うことや、日常的な情報交換を中心に正担任とのコミュニケーションを密に行うことを心がけていました。

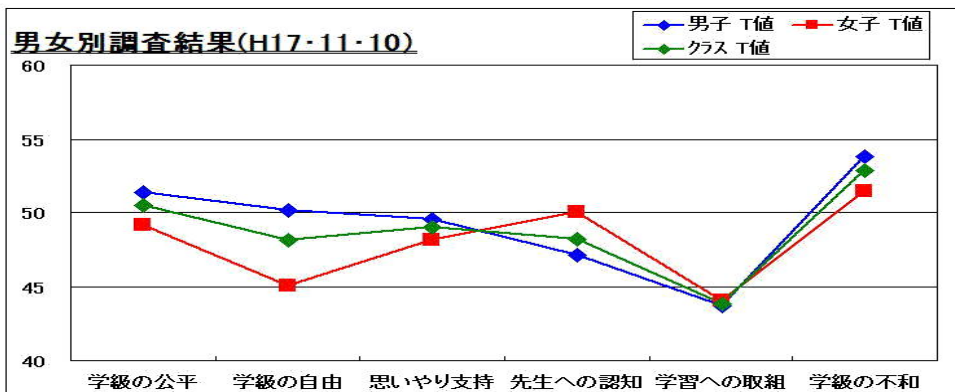
モデルクラスにおける実践前後の学級の雰囲気把握する質問用紙（群馬県教育センター実践ワークブック不登校問題課題解決支援資料改訂版2005）の集計結果

（実践前）



- 「学級の公平」が約5ポイント上がった。
- 「学級の自由」「思いやり支持」は、女子のポイントが上がったため、全体的に引き上がった。
- 「先生への認知」についてはばらつきが見られた。
- 「学習への取組」が約4ポイント上がった。
- 「学級の不和」では女子のみのポイントに注目すると、約5ポイント下がった。

（実践後）



実践から学んだこと・・・

コミュニケーションがすべてをつなぐ!!